

みんながつながる 地域学校協働活動便り

NO.21

青森県教育庁生涯学習課地域連携推進グループ 統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員 工藤 知久子
TEL: 017-734-9890 E-mail: chikuko_kudo@mx.pref.aomori.jp

令和7年度 学校運営協議会を視察しました NO.2



9/30 県立百石高等学校

はじめに、生徒会役員(3年生)から学校生活に関する説明と課題について発表がありました。その中で、昼食メニューを増やしてほしい等の要望が出されました。今年度前半の取組について、教頭先生から新聞記事等の紹介や県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針(案)についての説明がありました。熟議では、委員から「普通科の魅力化を考えてほしい」との意見が出されました。



10/4 県立むつ養護学校

しもきた克雪ドームで、高等部グラウンドゴルフ大会を兼ねて開催されました。委員も大会に参加し、ラウンドの前後に意見交換を行いました。近隣小学校が令和8年度末に、中学校が令和9年度末に閉校になることから、むつ養護学校との連携がなくなるのでは、という不安の声があがりました。また、毎日のように学校へ足を運び、日常的に生徒の様子を見守ったり、学習発表会では児童・生徒と共に合唱活動を行うなど学校行事に積極的に参加をしたりしている委員の様子が報告されました。



10/6 県立青森若葉養護学校

前回の協議会で出された意見をSWOT分析し、さらにクロスSWOT分析した内容について、教頭先生から説明がありました。それを受けて、2グループに分かれて意見交換をしました。次に、地域文化祭についての協議をし、各グループ代表者による発表が行われました。最後に、委員長から「普段の授業でやっている事が若葉の強み。こどもの個性を生かす地域文化祭では、授業で作成したものを展出し、こどもも先生も負担が軽減されているようです。」とお話がありました。



10/14 県立名久井農業高等学校

名久井農業高校の学校運営協議会には「生徒募集」と「研究活動」の2つの分科会があり、今回は生徒募集の分科会でした。会議では、秋のオープンスクール日程の打合せと、「名農祭」見学時の中学生のアテンドの確認、次年度生徒募集や寮の修繕費等について話し合われました。学校との綿密な打合せが行われた後の委員の活動の様子や南部町民との友好的な関係、教育委員会との連携を垣間見ることができました。



10/17 県立森田養護学校

今回は、森田養護学校、森田小学校、森田中学校の3校が参集して年に1回開催している拡大学校運営協議会でした。前半は、各校の取組、活動内容紹介、森田養護学校の校内見学でした。後半は、3校合同で行われた「つがる地球村3校合同清掃活動」の活動報告がありました。その内容を踏まえて、「地域と子どもが共に輝く森田の学び～交流学習の実践を通して～」というテーマで、4つのグループに分かれて熟議が行われました。



10/20 県立盲学校

最初に、校長先生から、「令和9年度に青森聾学校と併設する新校舎等について」、その後、教頭先生から「新校舎新築の現状及び八戸盲学校・八戸聾学校について」の説明がありました。次に、2グループに分かれて熟議を行いました。「フリーボード」というアプリを用いて、随時書き出した意見を大型モニターで可視化して進めていました。最後に、校長先生から「学校運営協議会の意見が実際に教育活動に生かされており、感謝している」とのお話がありました。



10/21 県立青森第二養護学校

前半は、地域と連携・協働した取組の状況と各学部の課題について、小学部・中学部・高等部の各担当教諭から説明がありました。後半は、2グループに分かれて、「地域と学校が連携した教育活動の充実に向けて」というテーマで熟議を行いました。小学部・中学部・高等部の順に、各学部主任を交えて、各学部の課題について協議をしました。委員からは、「本校のマスコットキャラクターのねぶた作成をしてはどうか」「戸山地区の民生委員に活動への参加をお願いしてはどうか」「教職員が無理のない範囲で活動してほしい」などの意見が出されました。



10/28 県立八戸高等学校

最初に、委員が授業を見学しました。協議では、はじめに、前生徒会長(3年生)が、学校課題である不登校について、生徒の視点から考えを発表しました。その後、委員から感想や質問があり、意見交換が行われました。学校からは、「地域学校協働活動の1つとして位置付けている『あおり創造学』の取組について、今後はグループごとの探究活動となるため、委員の皆さんに相談をすることがあると思うが、御協力をお願いしたい」という要望がありました。



10/28 県立七戸養護学校

前半は、各学部、分掌の取組状況等について、担当者から報告がありました。休憩時に、高等部3年生による「7TH CAFE」から、コーヒー等の提供がありました。後半の熟議では、2グループに分かれて意見交換が行われました。委員からは、「小・中学校、高校との交流があるので、大学生を連れてくるなどの形で学校に協力ができると思う」、教員からは、「公共施設などを利用してもらい、体験的活動があると良い」などの意見が出されました。



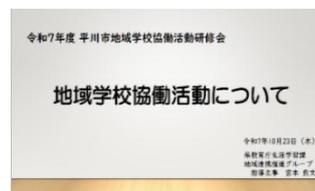
11/4 県立青森西高等学校

校長先生から、浪岡高校との統合により、令和9年度からスタートする新設校に向けた開設準備が進んでいる、という報告がありました。協議では、地域貢献活動や課題研究、学校運営協議会委員と生徒のパネルディスカッションである「青西トーク」の活動報告が行われました。委員からは、生徒の地域貢献活動に対して、「大変助かっており、ありがたく思っている」という褒め言葉がありました。

令和7年度 平川市地域学校協働活動研修会

10月23日(木)平川市教育委員会主催の「令和7年度平川市地域学校協働活動研修会」が、平川市文化センターで開催されました。当課担当者が講師として、平川市内の小中学校教職員と地域学校協働活動推進員を対象に、オンラインで行政説明と活動事例の紹介を行いました。

平川市教育委員会は、これまで地域と学校の連絡調整、活動の企画、地域のボランティアの人材発掘・確保等の統括的な役割を担う「地域コーディネーター」を各学校に配置していました。令和7年度に、全ての小中学校にコミュニティ・スクールを導入し、各校に置かれていた地域学校協働本部を1つにまとめるに当たり、この研修会を開催しました。今年度初めて地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員となった方もいるため、「地域学校協働活動」、「地域学校協働活動推進員」、「地域学校協働本部」、「CSと地域学校協働活動の一体的推進」についての説明と、県内の地域学校協働活動の事例紹介をしました。



令和7年度 CS マイスター等派遣事業プッシュ型派遣(文部科学省) 青森県立八戸商業高等学校

11月19日(水)県立八戸商業高等学校にて、文部科学省 CS マイスターの森万喜子氏を講師にお迎えして、CS の概要や先行事例を学ぶことを目的に、教職員を対象とした校内研修が開催され、約30名が参加しました。前半の講話では、CS の仕組みを理解した上で、地域と学校を結びつけることの重要性や必要性について、説明がありました。後半の熟議では、学年、分掌ごとの6グループに分かれて、八戸商業高校として大事にしたいことをメインのテーマに、学校の課題や地域連携について話し合い、活発な意見交換が行われました。

最後に、校長先生から、「今までも地域とのつながりは大事にしており、企業と共同開発商品を販売するなどをしているが、なかなか外に伝わらないことが学校としての課題。その課題を解決していきたい。」とお話がありました。



文部科学省

コミュニティ・スクールのロゴマークとキャッチコピー

学びの輪、地域の和、未来へ繋ぐ



コミュニティ・スクール制度化20周年を記念して、全国の児童生徒から募集したロゴマークとキャッチコピーが決定しました。使用方法や注意事項等は文科省ホームページをご覧ください。

令和7年度 第2回新郷村小中学校学力向上連帯事業協議会 コミュニティ・スクールに係る研修会

11月20日(木)新郷小学校にて、新郷村教育委員会主催のコミュニティ・スクールに係る研修会が行われました。今井裕一教育長をはじめ、新郷小学校と新郷中学校の教職員21名が参加しました。新郷村小中学校学力向上連帯事業協議会は、「連帯事業として、子どもの基礎学力を高めるために小中一貫した指導方法を模索し、互いに共通理解をすることで、教師の資質向上を図る」、「児童生徒についての情報交換を密にし、学習面並びに生活指導面の課題を洗い出し、共通実践を行うことで、地区の課題解決にあたる」ことを方針としています。

当課担当者が講師を務め、前半は、CSの概要や効果、学校職員にとってのメリットについて、説明を行いました。後半の熟議では、小中学校の混成で4グループに分かれ、「子どもたちの学力向上」をテーマに話し合いが行われました。各グループで、児童・生徒の実態に沿った様々な課題が出され、その対策について活発な意見交換がなされました。



令和7年度 県立学校対象コミュニティ・スクール研修会

11月25日(火)県総合社会教育センターにて、青少年と家族の未来研究所代表(元文部科学省CSマイスター)の増淵広美氏を講師にお迎えして、「県立学校対象コミュニティ・スクール研修会」を開催しました。県立学校におけるCSの仕組みを生かした学校運営やCSを運営する上での管理職や教職員の役割等について学び、県立学校へのCSの導入促進とCS既導入校におけるCSを生かした教育活動の充実を図ることを目的に、県立高等学校と特別支援学校の教職員31名が参加しました。

はじめに、当課担当者から「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴う県の対応、県立学校への地域学校協働推進員の配置等について、行政説明を行いました。

次に、「コミュニティ・スクールの仕組みを生かした学校づくり」をテーマに、増淵氏の講義がありました。高校におけるCSの意義や学校運営、協議会の機能、元神奈川県立市ヶ尾高等学校長としての経験(CS導入の背景、CSの実施体制、学校運営協議会の構成・協議内容)を、参加者からの事前質問にも答えながら、お話しくださいました。

演習では、増淵氏をファシリテーターとして、熟議を行いました。8グループに分かれて、CSの仕組みを生かして学校運営や教育活動で実現してみたいことをメインのテーマに、「実現してみたいこと」「学校と保護者・地域が、連携・協働してできそうなこと」を話し合い、模造紙にまとめました。

参加者からは、「講師の話からCSが負担ではなく、新たな学校運営の可能性になり得るのだと理解できた」「今年度よりCSが導入され、動き出したばかりですが、次年度以降どのように活性化していくか自分の学校に合ったCSになるよう努力したいと思います」等の感想がありました。



市町村から報告

県内市町村教育委員会が、CSと地域学校協働活動の一体的推進に向けて主催した事業をご紹介します。今回は、むつ市教育委員会です。



令和7年度 地域と学校の連携による防災学習

大畑中学校・防災学習

令和7年9月26日(金)むつ市立大畑中学校体育館にて、大畑中学校全校生徒114名と先生方、大畑地区民生委員・児童委員、青森県防災士会むつ支部、むつ市防災安全課、むつ市大畑庁舎、むつ市地域学校協働本部が参加して、「生きる力」や「命の大切さ」を考える「実践的な防災学習」が開催されました。防災の基礎的な行動を学ぶことで、将来に向けた地域の担い手づくりにつなげるべく、避難所環境の向上(T・K・B = トイレ・キッチン・ベッド)に関する実践的な体験学習を取り入れた内容としました。

第一部 「生きる」ために「命を守る」行動をとるといふ「避難の重要性」を認識させる



大畑地区で起こりうる災害について、災害シミュレーション動画も交えて学んだあと、避難情報の収集方法として、実際にタブレットを使用した演習(二次元コード・URLからサイトにアクセス)も行いました。

第二部 実践・体験



* 防災食ブース

* 簡易トイレ組立て

* 簡易ベッド組立て

* トイレカー見学

実際に体験することで、子どもたちが自分の意思や判断に基づいて自ら行動することが出来るようになり、将来は地域の担い手となれることを目的として、実施しました。

<参加者の感想>

- ・実際の被害の写真やシミュレーション映像を見て、災害への備えは日頃からしっかりやっておかなければいけないことを自覚しました。
- ・災害は急に起こるので、いざ避難となった時は自ら積極的に動こうと思いました。「自助・共助・公助」は常に頭に入れておきます。